令和7年度　大田区立御園中学校　自己評価　報告書

令和8年3月6日

○ 本校の概要

本年度は、1学年3学級、2学年3学級、3学年3学級、生徒数300名（9月現在）の規模となった。また、みらい学園中等部（学びの多様化学校分教室）の3学級に34名の生徒が在籍している。本校の教育課程には、「通常学級」「特別支援教室（拠点校）」「通級指導学級（難聴）」「学びの
多様化学校分教室」があり、多様な生徒が学校生活を送っている。また、22名の外国籍の生徒（6ヶ国）が在籍しており、そのうち、3名が蒲田中学校の日本語学級で、8名の生徒が校内で日本語の特別指導を受けている。
「大田区教育委員会教育研究推進校」「中学校版『おおたの未来づくり』研究実践校」「キャリア教育モデル校」（みらい学園中等部）
【目指す学校像】「挨拶と笑顔が自慢の御園中」を大切にして、「共生」「自学」「健康」「創造」を柱に、人権尊重の精神と自主自律を基本とし、多様な学びにより生徒の可能性を引き出すとともに、自らの生き方を主体的・肯定的に捉え、社会とつながり、自立するための資質・能力を育成する学校を目指す。
【本校の教育を推進する5つの鍵】本校の教育を推進するうえで、次の5つについて取り組んでいく。
1．いじめ対応、不登校への支援の徹底　2．課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成　3．新たな授業モデルの構築と深い学びに向けた教師の授業力の向上　4．コミュニティ・スクールの推進　5．主体的に考え、行動し、協働していく力の育成

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**生徒の学校生活アンケートで「主体的に考え、問題解決のためのタブレット活用」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4： 3：	4	【これまでの取組】 ・国語科の第2学年「広がる学び（魅力的な提案をしよう）」の単元で学習したプレゼンテーションの内容を総合的な学習の時間「キャリア探究」のまとめの発表で実施することで実践力を高めた。 ・社会科の第3学年「消費生活と経済（消費者の権利を守るために）」の授業では、家庭科の第3学年「消費生活・環境（消費者被害と消費者の自立）」で学習した用語等は既習事項として扱い、消費者契約法による契約の取り消し要件などの具体的事例を複数扱い、深い学びにつなげた。 ・体育の陸上競技の授業で持久走のタイムをタブレット端末のスプレットシートに記録し、ラップタイムの変化をグラフ化して目標の設定と学習意欲を高めた。 ・継続・発展的な見通しをもって「社会科見学・移動教室・修学旅行」の事前・事後学習による協働学習を行い、実施した。 ・タブレット端末と電子黒板を活用した授業で、個々の生徒の考えを共有するとともに、調べ学習やプレゼンテーションソフトを発表等により、情報活用能力を育成した。 【今後の改善策】 ・「おおたの未来づくり」研究実践校の2年目として、教科化に向けた実践例の積み重ねを計画的に推進していく。	A	10	・生徒のICT機器の活用力が上がり、例えばフォントの大きさや色使い等、表現に幅が出て豊かになってきている。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B		
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C		
		④おおたの未来づくり「キャリア探究」とともに、「主体的・対話的で深い学び」となるよう小集団での話し合い活動や協働学習を実施する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%未満	1：		D		
個別目標2 世界とつながる国際都市を担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	**生徒の学校生活アンケートで「コミュニケーション能力の向上」「国際社会・地域社会への関心」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	3	【これまでの取組】 ・社会科の「地域の在り方」の章での学習や本校に在籍の6か国の外国籍生徒と海外からの一時編入生徒との関わりを通して異文化の理解と互いに尊重し合う心を育成した。 ・理科の「地球と私たちの未来のために」の章で、エネルギーや環境問題等の解決に向けて生態系や炭素の循環を踏まえ、SDGsの観点から自分にできることを考えさせ、全体で共有した後、具体的な行動について検討させた。 ・外国語教育指導員（ALT）に昼休みや放課後の「英語カフェ」に加えて、部活動の場面でも生徒にオールイングリッシュでコミュニケーションをとることで、英会話力を向上させる機会を増やした。 ・英語科の授業で、ペアワークの会話練習を外国語教育指導員（ALT）の前で行い、確認と助言を受けるコミュニケーション活動を設定した。 【今後の改善策】 ・国際理解教育の実践がしやすい教室環境を整えた「国際理解教室」の整備が整っていないので、教室内に写真の掲示などから行っていく。 ・配置時数が増えた2名の外国語教育指導員（ALT）を英語科の授業でのネイティブな発音と音読練習や、生徒の英作文でのネイティブな表現の添削指導など、より効果的な活用について検討していく必要がある。	A	8	・外国語を身近に感じるためには、外国語しか話せない日を設定するなど、外国語に触れる環境が必要だと思う。 ・ますますグローバル化する子どもたちの世界であることから、積極的に外国の人たちと交流する事はとても大切である。これからも、外国からの在校生との交流を通した異文化の理解が必要である。そして、日本の伝統等日本の文化を言葉で話して伝えることができることも大切だと思う。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B		
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C		
		④国際理解教育を充実させ、異文化への関心や共生社会にふさわしい人権感覚の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%未満	1：		D		
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**生徒の学校生活アンケートで「規則や規律を守る」「健康や安全に気を配る」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・「特別の教科 道徳」の授業を中心に「正義感」「責任感」「規範意識」を高めるとともに、「思いやり心」を育てることに重点をおいて生徒の道徳的な実践態度を育てた。また、講師を招聘して「集団の一員としての自覚を高める道徳教育」をテーマにした校内研修会を実施した。 ・数学科は習熟度別、英語科は習熟の程度を考慮した少人数指導を展開し、個に応じたきめ細やかな学習指導を行った。各種検定については、英語検定3回と漢字検定3回、数学検定2回を実施した。各検定の3級以上の合格者は、1月末現在で、漢字検定23人、英語検定54人、数学検定7名となり、各級の取得人数を校内に掲示することで、生徒が目標に向かう意識を高めた。 ・保健の「健康な生活と病気の予防」の単元で3食の栄養素と生活リズムを学習し、タブレットを使った「早寝・早起き・朝ごはんチェックシート」（年3回）の実施と結果を生徒・保護者にフィードバックした。 ・校区内の2校の小学校と年間3回の授業公開と教育課題ごとの分科会での話し合いと全体会での共通理解、新入学生徒の情報共有により、小中一貫の連携を深めた。 ・年間6回の土曜補習教室では定期考査対策、年間19回の水曜放課後学習教室では各種検定（英語検定・漢字検定・数学検定）に向けた学習により基礎学力の定着を図った。 【今後の改善策】 ・年間20回予定しているの水曜放課後学習教室の参加者をさらに増やすため、学習習慣が身に付いていない生徒を対象に、各教科担当や学年の教員から各種検定へのチャレンジを促す。また、地域学校協働本部の運営で、Officeのアプリケーションソフトの活用力を習得できる講座を開き、指導をしていく。	A	9	・放課後学習教室でやっている内容についいて、先生方はどの位ご存じなのでしょうか？そこを理解してくれれば、生徒に声掛けしやすくなると思う。 ・資格試験は、能力担保であると同時に、やる気を示す一番分かりやすい指標である。慣れることが大切で、受験や就活にも応用できるので、更に力を入れてほしい。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B		
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%以上	2：		C		
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%未満	1：		D		
		⑤定期考査前の「質問教室」や英検・漢検・数検の資格取得を目指す「放課後補習」、「土曜補習教室」を実施し、基礎学力の向上につなげる。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4						
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	**生徒の学校生活アンケートで「授業はICT機器を有効活用して分かりやすく深く考えることができる」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・指導教諭の模範授業に13名、教師道場の公開授業に1名の教員を参加させた。模範授業等での授業方法について、校内で還元させることで、授業力の向上につなげさせた。 ・タブレット端末の学習コンテンツを活用し、習熟の度合に応じた演習問題に取り組ませた。数学科では、習熟度別に発展クラスと標準クラスを開設し、対象生徒に合わせた演習問題の取り組み時間と問題数により、習熟の度合に応じた学力の向上につなげた。英語科では、習熟の程度を考慮した少人数指導によりペアワークやグループの協働的な学びが深まるようにした。 ・夏季特別指導（夏のわくわくスクール）では、6教科で延べ14回の特別指導を実施した。 ・3つの部活動に部活動指導員、4つの部活に校外指導員を配置し、放課後、教員が生徒に向き合う時間を確保した。 ・保護者配布文書をクラウド型教育プラットフォーム（まなびポケット）のデジタル連絡機能での配布、職員会議資料のPDF化、教員支援員への印刷・配布の委託により、校務の効率化を図った。 【今後の改善策】 ・指導教諭の模範授業への参観を増やして授業力を向上させる。 ・タブレット端末のアプリケーションソフトを有効活用した授業実践例を参考にした授業の工夫改善を今後も継続していく。	A	10	・授業方法も大切だが、先生方にはご自身の哲学をもって生徒に接してほしいと思う。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B		
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4：「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1：「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C		
		④学校業務改革に取り組むとともに、保護者配布文書のデジタル配信や職員会議のペーパーレス化などICTを活用して、校務の効率化を通して働き方改革につなげる。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%未満	1：		D		
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	**生徒の学校生活アンケートで「学校生活・学級生活は楽しい」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・指導教諭の特別支援学級の模範授業への参観と参観者による巡回指導教員への還元、担当教員内での事例研修により教員の資質・能力の向上に努めた。また、年間7回の巡回相談心理士による指導助言を受け、共通理解を図った。あわせて、発達障がい支援アドバイザーによる指導を2回行った。特別支援教室拠点校として、グループ内6校の巡回校と連携した。 ・毎週の生活指導部会において、いじめの未然防止と早期発見と対応を組織的に行った。また、年2回の「ふれあい（いじめ防止強化）月間」で、教員シートによりいじめ防止等対策の取組状況を把握し、理解が不十分な教員をゼロにした。 ・1年生全員と転入生にスクールカウンセラーとの面接を実施した。不登校の生徒全員に、校内の教職員か学校外の機関とつながるようにした。また、大田区教育センター教育相談室のスクールソーシャルワーカーと連携して対象生徒の支援を行った。 ・欠席が続いた生徒・保護者への迅速な電話連絡と担任や登校支援員による家庭訪問を随時行った。学年教員の家庭連絡や複数の登校支援員による対応により、不登校生徒との信頼関係が構築され、第3学年の不登校生徒が約6割に減少した（2年次17名→3年次10名）。 【今後の改善策】 ・「学びの多様化学校分教室（みらい学園中等部）」や令和8年度から開設される「チャレンジクラス」により、今後も生徒の多様な学びを支援していく。	A	9	・きめ細かい先生方の対応で、子どもたちが良い学校生活を送ることができていると思う。これからも、子どもたちに寄り添っていってほしい。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4：「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満の教員が回答した。 2：60%以上80%未満の教員が回答した。 1：「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%以上	2：		C		
		④新たな不登校生徒の出現を抑止し不登校生徒の出現率を低下させるとともに、学校外の機関や校内の教職員とつながっていない生徒をなくす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%未満	1：		D		
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**保護者の学校評価アンケートで「ICT機器の有効活用」「特色ある食育活動」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・学期に1回の安全点検により、修繕が必要な箇所を把握し、安全な学校生活が送れるように学習環境を整備した。 ・蒲田西地区の保護司会と連携して、「闇バイトに関わってしまう若者たち」の講演（劇）と弁護士による講演を実施した。 ・「食物アレルギー面談」や「アレルギー対応連絡表」と日々の食物アレルギー対応の確認により、事故を防止した。栄養教諭による社会科・理科・保健体育科・総合的な学習の時間での「食育の授業」や給食の時間帯での「食育動画の配信」や「紙面でのニュース」により、特色ある「食育」を実施した。 【今後の改善策】 ・関係機関と連携した実践的な避難訓練や安全指導を継続していく。 ・栄養教諭による特色ある「食育」の実践を給食時と各教科とのコラボレーションにより実施していく。	A	9	・教員と生徒が「より良い学校」を共に目指しているように感じる。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B		
		③保護者との連携のもと、食物アレルギーの事故防止を徹底するとともに、特色ある「食育」を実施する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%以上 肯定的な回答が40%未満	2： 1：		C		
								D		
個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	**保護者の学校評価アンケートで「学年通信や学校ホームページにより学校の様子がよく分かる」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・年4回の「学校運営協議会」や年3回の校区の小学校と地域による「あじさい会」の会合を中心に地域との連携を図った。町会からの依頼による「学校防災活動拠点訓練」「餅つき大会」等へのボランティアに生徒が参加した。 ・「保護者を対象とした情報モラル講習会」「外部講師を活用したがん教育」、学校支援地域本部（みその学校サポート）による「土曜補習教室」を定期考査間に年6回実施した。 ・地域学校協働本部の運営で地域の人材（5回の時点で延べ52名）を活用して水曜放課後学習教室を年間19回開催した。土曜学習教室は3回の時点で延べ268名の生徒が参加した。職場体験（生徒125名参加）も含め、学校・家庭・地域の協働による学びを推進した。 【今後の改善策】 ・生徒の健全育成に関しては、校内の指導で十分な状況にあるが、安全指導も含め、地域の協力を高めていく。 ・警視庁蒲田警察署と連携して「命の大切さを学教室」の講演会を実施することで、生徒の規範意識の向上と地域コミュニティの核としての役割を果たす。	A	10	・学校防災活動拠点訓練へ生徒が参加する体制が構築ができたことは、大きな収穫であり満足している。 ・学校運営協議会は、学校内の様子を聞く機会や地域の情報を伝える場としては充分だが、先生方との関わりがもう少しあるともっと良い学校運営協議会になると思う。 ・学校運営協議会委員に配布する資料の内容が、「教員との意識合わせ」になっていて、当事者として読みやすくなった。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が60%以上	3：		B		
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C		
		④おおたの未来づくり「キャリア探究」や、職場体験、福祉体験を地域と連携して実施し、地域とともにある特色ある学校づくりを進める。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%未満	1：		D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。